

## Site 静岡県焼津市

静岡県焼津市の花沢山・高草山・満観峰の3つの山に囲まれた場所。 周辺には、花沢集落・吉津集落・高崎集落の3つの集落があり、自然景観の中に住宅や石垣、 農地が点在し、落ち着いた雰囲気を醸し出している。











## Research 隠れ里を行き交う登山人と歴史の残る山村集落

#### ▲ 幅広い世代の登山人

静岡県焼津市は太平洋側に位置するため、ほとんど雪が降らない場所である。 年中登山が可能であるこの場所には、趣味や散歩感覚でふらっと訪れる登山人 だけでなく、トレーニングなどを目的とする山に慣れ親しんだ登山人も多く訪 れる。休日は特に登山人の数が多い。

初心者から上級者まで幅広い世代の登山人がみられるため、登山口周辺の集 落内のカフェや販売所は賑わいをみせる。



吉津集落

#### ▲ 歴史漂う旧東海道

江戸時代に多くの旅人が物資の運搬などをする際,山村集落が複数あるこの場所の道を利用しており,静岡市と焼津市を結ぶ重要な街道であったことを2つの道標(法華寺の道標,風口坂の道標)が示している。

この隠れ里には,花沢城跡や法華寺,鳴沢不動尊など至る所に歴史ある建築 物や遺跡が残っているため,集落(建築物),道,自然が一体となって昔の歴史 的な空気感を漂わせている。



### ▲ 活気を失った山村集落

3つの山に囲まれた地域には複数の集落が点在しているが、集落同士の関わりは薄れている。 昔は山村集落一体となり、祭りや農作業が行われていたが、ほとんどの若者が集落を離れてし まったことで、生業は衰退しそれぞれの集落は孤立した状況にある。

花沢集落が重要伝統的建造物群保存地区に指定されたことで登山人が増えたが、地形的にも離れていることから、ほかの2つの集落の影が薄れてしまい、山村集落全体としては活気を失っている。今現在、集落同士を繋いでいるのは、旧東海道と統一された石垣景観だけである。





# Concept 歩いて伝える登山人の拠点

高崎集落

登山人の居場所がない状況と、生業が衰退し孤立した集落に着目し、集落景観をつくる重要な要素である石垣を 地形に馴染むように活かした登山人の拠点を提案する。

登山を通じて味わうことができる人や生物との出会いや、進んだことのない道を進む感覚を空間に置き換え、温泉や食堂、宿泊棟を点在させる。登山人が疲れをとりながら語り合い、自らの経験や思い出を共有するだけでなく、 集落住民と交流し、地域の歴史を知ることで旧東海道が人々の拠り所となり、集落をつなげていく。

計画敷地



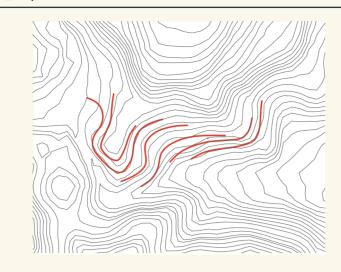
# Diagram 登山を空間にする

#### STEP① | 集落景観を支える石垣の活用



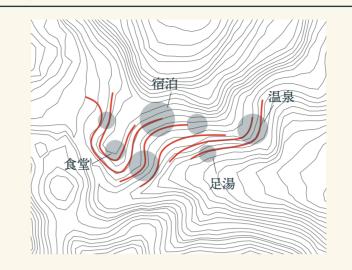
集落の伝統的な景観をつくる1つの重要な要素である「石垣」。 家屋の基礎として使われている石垣を空間の軸として考える。

#### STEP② | 登山人を誘導する石垣空間



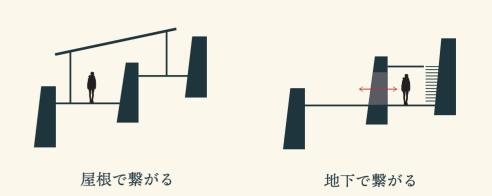
敷地の地形にそって、石垣を帯状に配置する。 流動的な石垣が集落同士をつなげるような流れを生む役割を果たす。

#### STEP③ | 登山を建築空間に置き換える



癒しと体験の場を点在させ、様々なピークをつくる。 山登りの感覚で人々にさまざまな発見や出会いを与える。

#### STEP④ | 様々な道が絡み合う

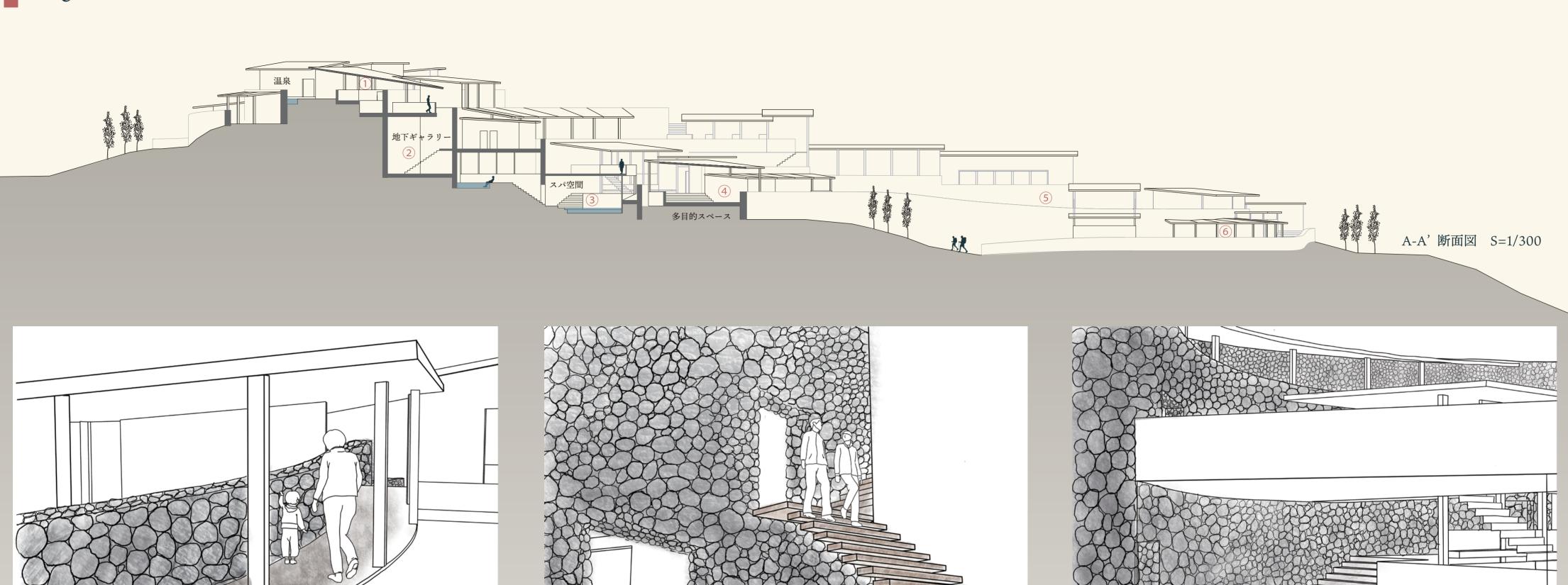


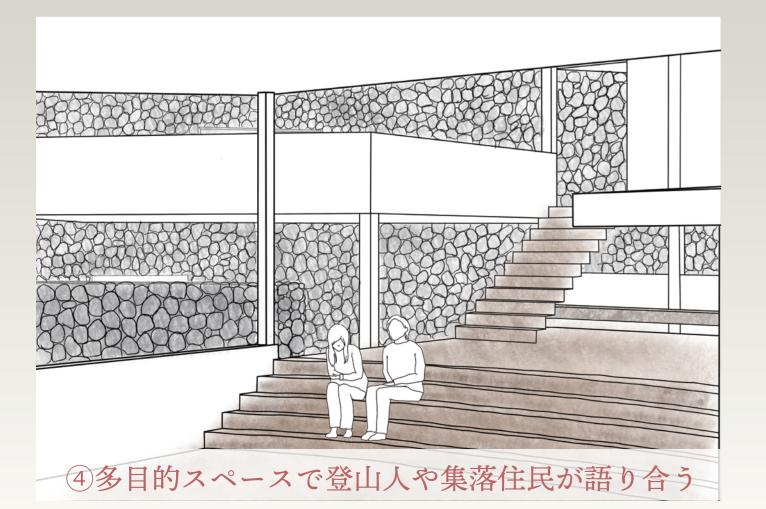
複数のアプローチと多様な動線によって, 訪れた人々が 選択しながら, 自分に合った道を見つける。

# Program 地形に馴染む石垣に包まれた登山人の居場所



### Program 点在する癒しの交流空間 長期滞在者のための宿泊棟 病気や怪我など身体が弱いお年寄りが、長期でこの場所 に滞在し、温泉や地元の食を楽しんだり、訪れる人々と 交流することで元気を取り戻す。 温泉① 1番高い場所にあることから、海や山、街 石垣の役割 の景色を感じる。違う集落の住民同士や登 山人が交流する。 ①境界を明示する ②視界を遮る風雨から家を守る ③高さを操作することで机や椅子になる ④植物との一体感をつくる スパ空間 ⑤景観維持,場所に対するイメージを抱かせる 石垣と自然に包まれる開放的な水空間を 歩きながら体験することで、健康を保つ。 短期滞在者のための宿泊棟 基本的に登山人や観光客が宿泊する。 山小屋感覚で泊まり、自炊体験ができ, 登山人同士で語り合うことのできる場所である。 リラクゼーション空間 自然をそばで感じながら、登山の疲れをとり、 身体を休め、心を落ち着かせる。 温泉② 登山を終えた登山人や作業を終えた集落住民が、 気軽に利用できる。 集落の景色を眺めながら、身体を休める。 旧東海道に沿ったカフェ 多目的スペース 集落住民が運営し、訪れた登山人をもてなす。地元の 食材を使い、この街や集落について知ってもらう。 ボランティアが登山人向けに講義をしたり、 ワークショップなどが行われる。広い階段が 椅子になり、気軽に腰を下ろして休憩できる。





①空間と空間が石垣と屋根で繋がる

